

BACCALAURÉAT GÉNÉRAL

SESSION 2016

JAPONAIS

VENDREDI 17 JUIN 2016

LANGUE VIVANTE 1

Durée de l'épreuve : **3 heures**

Séries **ES** et **S** – coefficient : **3**

Série **L** Langue vivante obligatoire (LVO) – coefficient : **4**

Série **L** LVO et Langue vivante approfondie (LVA) – coefficient : **8**

L'usage des calculatrices électroniques et du dictionnaire est interdit.

Dès que ce sujet vous est remis, assurez-vous qu'il est complet.
Ce sujet comporte 5 pages numérotées de 1/5 à 5/5.

Répartition des points

Compréhension de l'écrit	10 points
Expression écrite	10 points

Notion : Mythes et héros

TEXTE

妖怪

日本人は昔から、たくさんの妖怪を生み出してきました。「妖怪先生」のあだ名を持っている小松先生は「妖怪を通じて、日本人の歴史やその心の世界が分かることができる」と言います。

「真っ暗な夜の道を歩いていると、前に壁ができて進めないような感覚になった」 「川から聞いたことがない音がする」——。こんな日常の不思議な体験や音、においなどを人々は「ぬりかべ」「小豆洗い」などと呼んで妖怪をつくり出しました。不思議な現象に妖怪の名前をつけることで、不安や恐怖心をコントロールしようとしたのです。

ところで、妖怪を研究する学問「妖怪学」は明治時代にできました。当時の哲学者たちは、妖怪を「迷信」とみなして、それを打ち消そうとしました。例えば「大入道」。これは、月の光がつくった木の影を見間違えたものだと、科学的知識をつかって説明しました。近代日本を立ち上げるために、非科学的なものは邪魔だと考えたのでしょう。

一方、大正(1912-1926)から昭和初期に働いた民俗学者¹の柳田国男は、近代化で消えていく農村の文化や生活を記録するべきだと考えました。妖怪のことも記録するのは重要だとみなしていました。

小松先生の妖怪学は、妖怪を打ち消すためでも保存するためでもありません。妖怪を生み出した日本文化を見つめることで、日本人や日本社会が抱える²恐怖心や不安などを表わすことができるのではないかと考えています。

妖怪と言えば、鬼やかっぱ、てんぐが代表的ですが、「酒呑童子」という鬼がいます。平安時代(794-1184)、京都の西の大江山に住んで、都に出てきては、人をさらって食べたりしました。酒呑童子は退治される³直前にこう言いました。「私は先

¹ 民俗学者 : un ethnologue

² 抱える : porter

³ 退治する : exterminer

25 祖^ぞからずっと守^{まも}っていた比良山^{ひらさん}を桓武天皇^{かんむてんのう}と伝教大師^{でんぎょうだいし}⁴に追^おわれた⁵」と。小松先生^{こまつ}はこの言葉^{ことば}に注目^{しゅつめ}します。酒吞童子^{しゅてんどうじ}の物語^{ものがたり}は、その土地^ちにいる神々^{かみ}を信^{しん}じる修^{しゆ}行^{ぎやう}者^{しや}⁶たちが、新^{あたら}しく日本^{にっぽん}に伝^おわって来た^{しめ}仏教^{ぶつぎやう}によって、活^お動^{しめ}の場^ばを追^おわれた^{しめ}ことを示^{しめ}しているのではない^しか、と思^{おも}うのです。「先^{せん}住^{じゆう}者^{しや}=敗^{はい}者^{しや}⁷=鬼^{おに}、征^{せい}服^{ふく}者^{しや}⁸=勝^{しょう}者^{しや}=人間^{にんげん}」という関係^{かんけい}性^{せい}が見^みえてきます。

30 室町時代^{むろまち}(1336-1573)の「百鬼夜行^{ひゃっきやこうえまき}絵巻^{えまき}」には、夜^よの大^{だい}通^{つう}り^りを、妖^{よう}怪^{かい}に^{こと}変^{へん}化^かした^{こと}琴^{こと}や傘^{かさ}、大^{だい}鍋^{なべ}などが歩^あく様^{よう}子^すが描^かかれていま^いす。これら^{これら}の妖^{よう}怪^{かい}を「付^つ喪^{もがみ}神^{かみ}」と言^いいま^いす。当^た時^じ、道^だ具^ぐは100年^{ねん}たつと霊^{れい}を持^もつようにな^なって、人^{ひと}をだますと信^{しん}じら^られていま^いました。そこ^{そこ}で、人^{ひと}々は99年^{ねん}間^{かん}道^だ具^ぐを使^すったら捨^すてていま^いました。怒^{おこ}った道^だ具^ぐたち^{たち}は、節^{せつ}分^{ぶん}の夜^よに妖^{よう}怪^{かい}変^{へん}化^かの力^{ちから}を得^えて、人^{ひと}間^{かん}や牛^{うし}馬^ばをさら^さって食^くべたと言^いわれていま^いす。人^{ひと}々の、もったい^もない^{ない}とい^いう後^あろめ^ろた^たさ^さ⁹の気^き持^もち^ちの表^{あらわ}れ^れな^なのでし^しょう。

小松教授^{こまつきやうじゆ} 「妖^{よう}怪^{かい}と現^{げん}代^{だい}人^{にん}」 asahi.com (朝^あ日^に新^{しん}聞^ん社^{しゃ}) より

⁴ 伝教大師 : le moine Saichô (767-822)

⁵ ...を追^おわれる : être chassé de

⁶ 修^{しゆ}行^{ぎやう}者^{しや} : un pratiquant

⁷ 敗^{はい}者^{しや} : un vaincu

⁸ 征^{せい}服^{ふく}者^{しや} : un conquérant

⁹ 後^あろめ^ろた^たさ : mauvaise conscience

TRAVAIL À FAIRE PAR LE CANDIDAT

- 1) Les candidats traiteront le sujet sur la copie qui leur sera fournie en faisant apparaître la numérotation.
- 2) Ils composeront des phrases complètes sauf indication contraire.
- 3) Les citations seront limitées aux éléments pertinents et suivies de la mention de la ligne.

I. COMPRÉHENSION DE L'ÉCRIT

Tous les candidats traiteront les questions suivantes

Répondez aux questions suivantes en japonais :

- 1) 「日本人は昔から、たくさんの妖怪ようかいを生み出してきました。(1行目)」とありますが、なぜたくさんの妖怪ようかいを生み出してきたと作者は考えていますか。
- 2) どんな体験から妖怪「ぬりかべ」を作り出しましたか。
- 3) いつから妖怪ようかいを学問として扱あつかうようになりましたか。
- 4) このテキストの中に、妖怪ようかいの名前は全部でいくつありましたか。妖怪ようかいの名前も書いてください。
- 5) 柳田国男やなぎだくに おは「妖怪ようかいの保存ほぞん」のためにどんなことをしましたか。
- 6) 「酒吞童子しゅてんどうじ」と「付喪神つくもがみ」の共通の特とく徴ちゆうは何ですか。
- 7) 何が「付喪神つくもがみ」という妖怪ようかいになったのですか。どうしてですか。
- 8) 「付喪神つくもがみ」という妖怪ようかいは昔の人について何を表あらわしますか。

Seuls les candidats composant au titre de la LVA (Langue Vivante Approfondie) traiteront également les questions suivantes

- 9) 昔の「妖怪学ようかい」と小松先生こまつが提唱ていしょうする「妖怪学ようかい」は、どう違いますか。説明してください。

II. EXPRESSION ÉCRITE

Afin de respecter l'anonymat de votre copie, vous ne devez pas signer votre composition, citer votre nom, celui d'un camarade ou celui de votre établissement.

Seuls les candidats des séries S et ES et ceux de la série L qui ne composent pas au titre de la LVA (Langue Vivante Approfondie) traiteront les questions suivantes

- 1) あなたのオリジナル^{ようかい}妖怪を考えて書いてください。どんな^{すがた}姿、^{とくちょう}特徴をして
いますか。いつ、どんな場所に現れますか。(250 signes)
- 2) あなたは、どんな時に、「不安」や「恐怖心」^{きょうふ}を感じましたか。あなたの体
験を書いてください。(150 signes)

Seuls les candidats composant au titre de la LVA (Langue Vivante Approfondie) traiteront la question suivante

現代社会と室町時代^{むろまち}を比べて、物や道具の使い方はどのように変わりましたか。「も
ったいない」「後ろめたい」という気持ちにならないようにするために、私たちはど
んなことができると思いますか。(400 signes)